

平成18年4月現在の燃料油高騰の運賃転嫁状況アンケート調査結果について

日本内航海運組合総連合会
運賃・用船料委員会

. アンケート実施概要

アンケート実施期間 平成18年4月3日～4月20日
(前回調査) 平成17年11月17日～12月1日

対象事業者数: 200事業者 (内航総連合会調査による元請オペレーター237社中上位200社)

回答事業者数: 152事業者 (前回調査 134事業者)

有効回答率: 76% (前回調査 67%)

補捉率: 年間輸送量ベース 91% (前回調査 86%)

(回答事業者の平成16年度輸送量 ÷ 16年度内航船全輸送量 : 内航総連合会調査)

: 年間消費量ベース 87% (前回調査 88%)

(回答事業者の平成16年度年間燃料消費量 ÷ 16年度内航船舶輸送統計年表による年間消費量)

. 調査結果の概要

(1) 全体調査

燃料油高騰によるコストアップ(平成17年3月末 A重油40,900円/KL C重油 30,800円/KL)と(平成18年3月末 A重油57,800円/KL C重油 47,800円/KL)の価格差 A重油 16,900円/KL C重油17,000円/KLの荷主への転嫁率は51%であり、前回調査41%を10%上回り、転嫁率が改善された。

しかし、転嫁率が20%未満の該当事業者は、0%未満 18事業者、10%未満 33事業者 20%未満 8事業者と合計59事業者もあって、回答全事業者(152事業者)の約40%を占めているという大きな課題を残している。

(2) 品目別調査

RORO・コンテナ船貨物、鋼材、石油、石灰石がバンカーサーチャージ方式、セメントがコスト保証方式による転嫁率が高い傾向にある。

バンカーサーチャージによる転嫁は前回が全体の26%であったものが、今回は57%と大幅に拡大している。

事業者の荷主への転嫁状況についての現状は、59%が不満となっており、前回に引き続き高くなっている。

調査結果

1. 燃料油の年間消費量について

(単位:KL)

調査時期	C重油	割合	A重油	割合	計
平成17年11月	1,643,346	68%	756,792	32%	2,400,138
平成18年4月	1,693,625	71%	687,327	29%	2,380,952

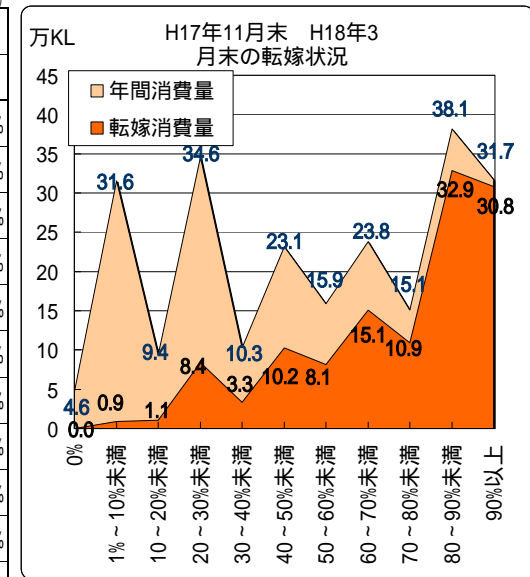
内航主要オペレーター152社(全輸送量の91%)の年間消費量は、2,380,952KLとなり、平成16年度内航船舶輸送統計年表による年間消費量274万KLの87%となる。

2. 燃料油価格値上がり分の転嫁状況

(単位:KL、%)

転嫁割合	平成18年4月調査						転嫁割合	平成17年11月調査					
	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合		年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合
0%	46,325	2%	0	0%	18件	12%	0%	230,388	10%	0	0%	37件	28%
1%~10%未満	315,766	13%	9,027	1%	33件	22%	10%	502,708	21%	50,271	5%	21件	16%
10~20%未満	93,865	4%	10,635	1%	8件	5%	20%	155,070	6%	31,014	3%	8件	6%
20~30%未満	345,695	15%	83,678	7%	13件	9%	30%	274,298	11%	82,289	8%	15件	11%
30~40%未満	102,832	4%	33,260	3%	9件	6%	40%	155,859	6%	62,344	6%	5件	4%
40~50%未満	231,207	10%	102,489	8%	13件	9%	50%	244,344	10%	122,172	13%	16件	12%
50~60%未満	158,703	7%	81,253	7%	13件	9%	60%	241,521	10%	144,913	15%	6件	4%
60~70%未満	237,743	10%	151,183	12%	16件	11%	70%	176,102	7%	123,271	13%	8件	6%
70~80%未満	150,679	6%	108,900	9%	7件	5%	80%	215,831	9%	172,665	18%	6件	4%
80~90%未満	381,347	16%	328,790	27%	9件	6%	90%以上	204,017	9%	183,615	19%	12件	9%
90%以上	316,790	13%	308,164	25%	13件	9%							
計	2,380,952	100%	1,217,379	100%	152件	100%	計	2,400,138	100%	972,554	100%	134件	100%
転嫁率51%							転嫁率41%						

*小数点以下四捨五入のため、%の合計が100%にならない。



転嫁消費量は全体として1,217,379KLとなり転嫁率は51%となった。

しかし、20%未満の転嫁率の事業者は全体の約40%と多い点に

留意する必要がある。

3. 品目別転嫁状況

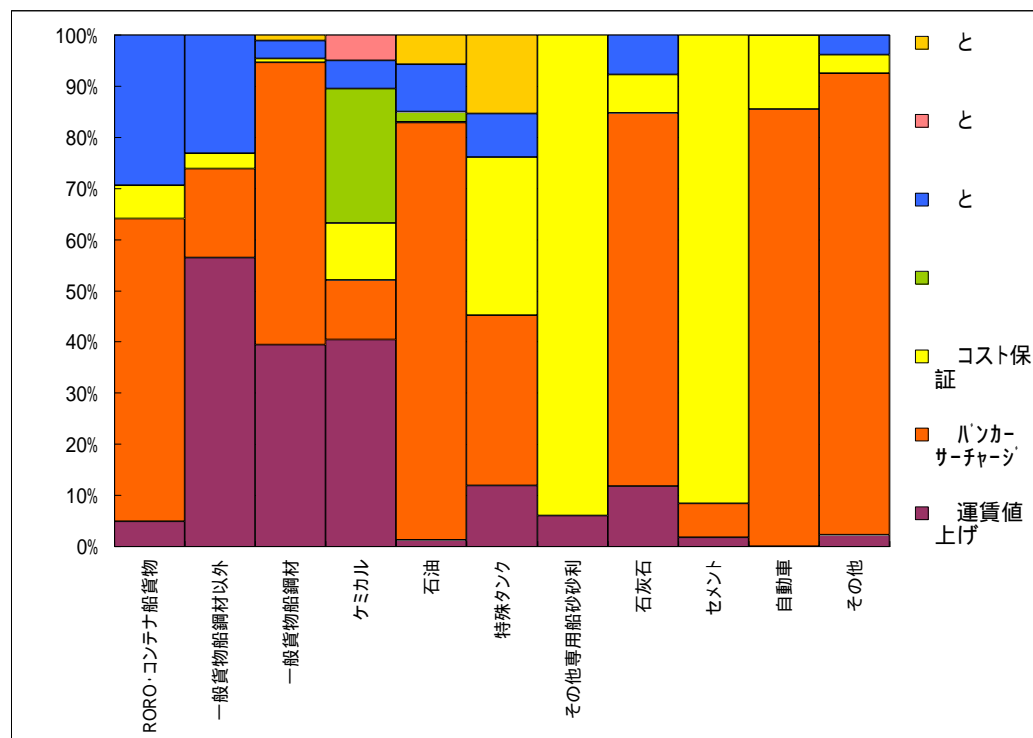
品目別に転嫁の程度・転嫁方法・燃料消費量別に集計した結果、つぎのとおりとなった。但し、品目別の回答は、1事業者が複数回答するため回答件数が回答事業者より多くなる。

全体

(単位:KL、%)

	品目名	平成18年4月調査											平成17年11月調査										
		品目別内訳(消費)		品目別内訳(転嫁)									品目別内訳(転嫁)										
		該当件数	消費量	該当件数	転嫁量	消費量に対する転嫁率(量)	運賃値上げ	バンカーサーチャージ	コスト保証		と	と	と		品目名	消費量に対する転嫁率(量)	運賃値上げ	バンカーサーチャージ	コスト保証		と	と	と
1	RORO・コンテナ船貨物	18	569,181	17	290,008	51%	5%	59%	7%	0%	29%	0%	0%	1	RORO・コンテナ船貨物	43%	29%	19%	1%	0%	7%	0%	44%
2	一般貨物船鋼材以外	59	236,560	42	54,680	23%	56%	17%	3%	0%	23%	0%	0%	2	一般貨物船鋼材以外	38%	32%	47%	5%	0%	15%	0%	0%
3	一般貨物船鋼材	38	225,748	37	152,323	67%	39%	55%	1%	0%	4%	0%	1%	3	一般貨物船鋼材	69%	32%	43%	1%	1%	24%	0%	0%
4	ケミカル	28	110,719	20	27,918	25%	40%	12%	11%	26%	5%	5%	0%	4	ケミカル	26%	41%	37%	2%	8%	12%	0%	0%
5	石油	32	547,697	27	265,198	48%	1%	82%	0.1%	2%	9%	0%	6%	5	石油	44%	43%	37%	0%	2%	19%	0%	0%
6	特殊タンク	29	147,148	25	63,756	43%	12%	33%	31%	0%	9%	0%	15%	6	特殊タンク	40%	11%	12%	51%	12%	12%	0%	1%
7	その他専用船砂砂利	10	13,071	3	3,791	29%	6%	0%	94%	0%	0%	0%	0%	7	その他専用船砂砂利	88%	10%	0%	90%	0%	0%	0%	0%
8	石灰石	12	58,330	10	53,493	92%	12%	73%	8%	0%	8%	0%	0%	8	石灰石	90%	19%	11%	64%	0%	6%	0%	0%
9	セメント	21	160,065	20	155,860	97%	2%	7%	92%	0%	0%	0%	0%	9	セメント	98%	4%	3%	94%	0%	0%	0%	0%
10	自動車	8	200,206	8	45,692	23%	0%	86%	14%	0%	0%	0%	0%	10	自動車	45%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%
11	その他	12	112,227	9	104,660	93%	2%	90%	4%	0%	4%	0%	0%	11	その他	28%	25%	55%	1%	0%	18%	0%	0%
	合計	267	2,380,952	218	1,217,379	51%	11%	57%	17%	1%	12%	0.1%	2%		合計	53%	27%	26%	22%	2%	12%	0%	11%

*小数点以下四捨五入のため、%の合計が100%にならない。



・転嫁方法については、前回調査に比べ、運賃値上げによる転嫁割合が16%減少し、バンカーサーチャージが31%と大幅に増加した。コスト保証は5%減少した。

傾向として運賃値上げによるものは一般貨物、ケミカルに、バンカーサーチャージによるものはRORO・コンテナ貨物、石油、石灰石、自動車に、コスト保証によるものは、セメント、砂・砂利に見受けられる。

・転嫁率が前回調査を上回った品目としては、RORO・コンテナ貨物8%、石油4%、特殊タンク3%、石灰石2%、その他65%の5品目がそれぞれ増加した。

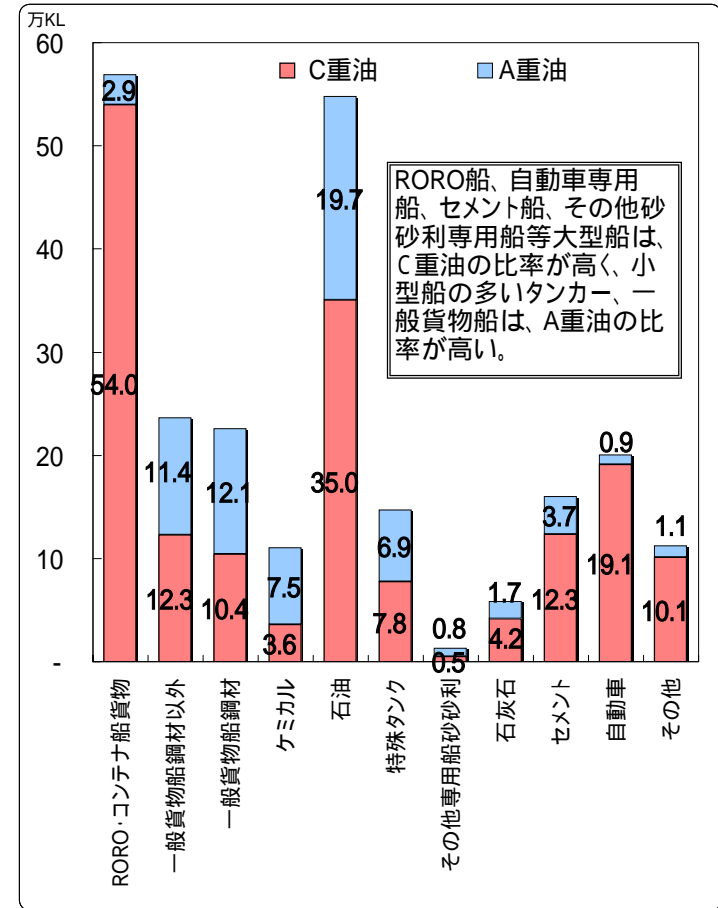
対照的に前回調査を下回った品目としては、一般貨物船鋼材以外15%、砂砂利59%、自動車22%の3品目が大きく減少した。

また、転嫁率のほぼ変わらない品目としては、一般貨物船鋼材、セメントとなり、ケミカルは改善が見られなかった。

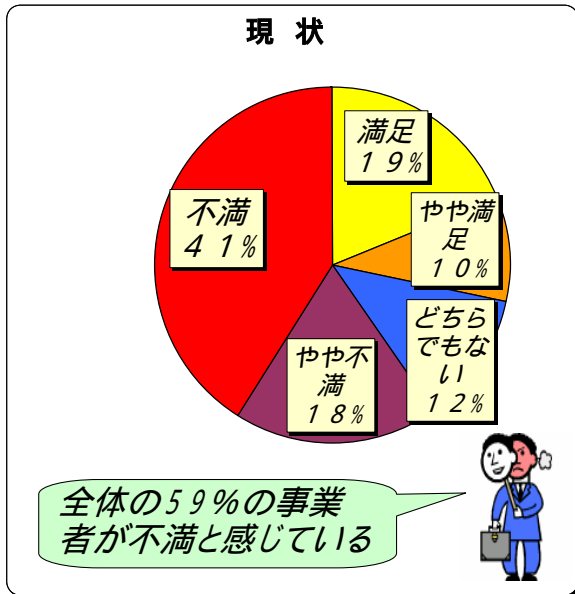
C・A重油別消費量比率

(単位:KL、%)

品目	C重油	A重油	C重油とA重油の割合		年間消費量
1 RORO・コンテナ船貨物	540,065	29,116	95%	5%	569,181
2 一般貨物船鋼材以外	122,952	113,608	52%	48%	236,560
3 一般貨物船鋼材	104,461	121,287	46%	54%	225,748
4 ケミカル	36,121	74,598	33%	67%	110,719
5 石油	350,410	197,287	64%	36%	547,697
6 特殊タンク	77,866	69,282	53%	47%	147,148
7 その他専用船砂砂利	4,847	8,224	37%	63%	13,071
8 石灰石	41,586	16,744	71%	29%	58,330
9 セメント	123,442	36,623	77%	23%	160,065
10 自動車	191,039	9,167	95%	5%	200,206
11 その他	100,836	11,391	90%	10%	112,227
合計	1,693,625	687,327	71%	29%	2,380,952



4. 運賃への転嫁の現状に対する事業者の各品目別満足度について



現状	該当数	%
満足	47件	19%
やや満足	24件	10%
どちらでもない	30件	12%
やや不満	46件	18%
不満	103件	41%
合計	250件	100%

*品目別に複数回答あるため事業者数とは一致しない。